令和８年度　第１回　刈谷市水道事業及び下水道事業審議会　議事録

１　日　時

令和 8 年 9 月 29 日（火）午後 3 時 00 分～4 時 20 分

２　場　所

刈谷市役所 1 階　101 会議室

３　出席委員　6 名

齊藤　由里恵（中京大学教授）　※会長

平山　修久（名古屋大学准教授）　※会長職務代理

丸地　弘泰（丸地公認会計士事務所）

岡田　行永（刈谷商工会議所専務理事）

作田　美乃利（かりや消費者生活学校委員長）

好光　正豪（中部電力ミライズ株式会社）

４　欠席委員　2 名

松本　嘉孝（豊田工業高等専門学校教授）

加藤　京子（刈谷市女性の会連絡協議会会長）

５　事務局

久住　敬志（水資源部長）

【水道課】

近藤　憲司（課長）

尾崎　佳織（課長補佐兼工務係長）

安藤　耕一（総務係長）

石川　美緒（主査）

山本　龍之介（主事）

【下水道課】

松井　泰隆（課長補佐兼維持係長）

島村　誠（計画係長）

牧野　宏紀（業務係長）

大伊　智貴（技師）

加藤　遼大（主事）

６　傍聴者

なし

７　公開・非公開の別

公開

８　次第

１　議題

（１）刈谷市水道事業　令和７年度決算状況について

（２）刈谷市下水道事業　令和７年度決算状況について

２　その他

≪１　議題≫

（１）刈谷市水道事業　令和７年度決算状況について　質疑等

（事務局より水道事業の令和７年度決算状況について説明）

【委員】

1 点目に給水収益が減少した要因として 75 ㎜の大口の有収水量が減少したと説明がありましたが、一時的なものか継続していく傾向があるものかどのようにお考えでしょうか。2 点目に、人件費、委託費、動力費等が経営戦略と比較して増加していることについて、誤差として吸収できるものなのか経営戦略自体を見直す必要があるレベルなのかどのように捉えたらよいでしょうか。また、昨今様々値上がりしている中で、工事に関しては経営戦略を改定した時点と比較して単価等は上昇している傾向があるのでしょうか。さらにそういった単価等が経営戦略と乖離していくと見直しの必要があるでしょうか。

【事務局】

75mm の水量の減少については、一時的なものか継続的なものかはまだ分析ができておりませんので､有収水量の増減を注視しながら分析を進めさせていただきます。また、支出の増加等に関しましては今後、意見を踏まえて経営戦略を見直ししてまいりたいと思っております。

【委員】

8 年度も 5 か月ほど経過して、口径別水量について月間の比較等ができるようになってきたと思います。このあたりが料金体系をどう考えていくかというところに繋がってくると思うので、今後の見通しをどう見るか、もし使用者の方とコミュニケーションが取れるならコミュニケーションを取りながら考えていくことが重要なのかなと思います。

【委員】

資本的収入が大きく減少した理由として起債対象事業の減少による企業債の発行の減少と説明していただきましたが、刈谷市水道事業だと企業債関連の財政に関する指標が他団体と比較してかなり良好だと思います。今後もまた当初の予定より発行額が少なくなると数値はよくなることがあるかと思いますが、逆に企業債の有効活用について今後の方針等があれば教えていただければと思います。

【事務局】

7 ページの将来予測でも説明させていただいたとおり、水源浄水場の更新事業をはじめ、更新投資が多くなりますので企業債を利用していく必要があり、7 年度までは企業債に関する指標は良好な状態ですが､今後は悪化していく見込みであります。

【委員】

企業債残高に関する指標は低い方がいいと思いますが、見方を変えると企業債をうまく活用できていないという考え方もあると思いますので、指標の推移を見ながら借入等を検討していっていただければと思います。

【委員】

特に 4 ページ以降で様々な指標を用いて今年度の決算状況の分析をしていただいているかと思います。その中で類似団体や全国平均との比較は一つの目安になるかと思いますが、大切なのは経営戦略の中で示している達成目標に対して現状どうなのかという点を市民に分かるようにしていくことかと思います｡現在の経営戦略では、企業債残高は 300％以内、供給単価は 172 円程度と書かれていますが、他の指標についてはきっちりと目標値が記載されていません。例えば有収率は 100％、経常収支比率は 100％以上になるのかなと思いますが、このあたりを次期の経営戦略ではきちんと設定し、類似団体の平均との比較だけでなく、各年度の決算時点で経営戦略の目標値をどの程度達成できているかという比較をしていただくとよいと思います。そうしないと、例えば、全国平均との比較では管路の更新率が 0.28 と低くなっているのが、口頭で説明いただいたように重要な管路の耐震化を優先しているためというのが分からないし、市民の方からすると全然管路の更新ができてないという見方をされてしまいます。そのためにも、経営戦略の目標値との比較を意識していただければと思います。

【事務局】

ありがとうございます。今後、経営戦略を策定、改定する際には各指標について目

標値を記載できるよう検討していければと思います。

【委員】

近年の金利上昇について、前回経営戦略を改定する際も金利は上昇傾向にあるとして金利上昇を見込んでいたかと思いますが、改訂した際と比較してどのような状況でしょうか。その時よりもより一層上昇していますか。

【事務局】

前回の経営戦略改定時の財政シミュレーションでは1.5%で計算しておりましたが、今回お示しております財政計画の将来予測を作成する際には 4.0%で計算しております。

【委員】

金利 4.0%は将来にわたってもその利率で計算されていますか。

【事務局】

将来にわたっても 4.0%で試算しております。

【委員】

どちらかと言えば、これからも利率は上がる可能性が高いでしょうから、そうすると将来予測はもう少し下振れすることもあるということでしょうか。

【事務局】

その可能性は充分にあるかと思っております。

（２）刈谷市下水道事業　令和７年度決算状況について　質疑等

（事務局より下水道事業の令和７年度決算状況について説明）

【委員】

流域下水道負担金の臨時改定は今後も想定されているのでしょうか。

【事務局】

基本的には、愛知県の収支計画に基づき３年に１度定時改定が行われていますが、想定していたよりも費用がかさんだり、水量が減少したりすることにより単価改定が必要になることは考えられます。昨今の物価上昇は顕著でありますので、今後も臨時改定は想定されます。

【委員】

インフレ・金利高騰等の外的要因を織り込んだ経営戦略にしていく必要があるので

はないでしょうか。

【事務局】

負担金の単価上昇を加味した将来推計をしていくことが必要になっていくと考えております。

【委員】

定時改定・臨時改定の両方織り込むとなると、相当な使用料単価上昇率が見込まれますが、上昇幅を抑える工夫とかは考えておられますか。

【事務局】

愛知県の処理場を使用しているため、上昇幅を抑えるためには愛知県の経営努力によるものが大きいと考えております。

【委員】

更新時期がきていない管渠の老朽化率と改善率が低い状態であるが、インフレ等を考慮するのであれば更新時期を前倒しにすることで、中長期的なコストを削減できるかと思いますが、刈谷市としてはどう考えていますか。

【事務局】

ストックマネジメント計画にて示しておりますが､更新速度を加速していくことで、事業の平準化を図っていく予定です。

【委員】

説明資料２ページにあります、流域下水道負担金の９００万円増加は負担金の単価上昇分ですか。

【事務局】

単価上昇と処理水量減少の差引により、９００万円増加しております。純粋な単価上昇による増加分ではありません。

【委員】

前回の経営戦略策定時には、令和７年度の定時改定については見込んでいたのでしょうか。

【事務局】

令和７年度の定時改定は経営戦略に反映しておりましたが、それ以降の年には反映していません。次回の経営戦略策定時には、想定される単価改定を反映させる必要があると考えております。

【委員】
市民への説明として、経営戦略時に設定した目標を現状どのくらい達成しているのかを伝える必要があると考えております。また、昨今の物価高騰やインフレなどの社会状況を適切に使用料に反映させていくこと、使用料改定の市民への理解を得るためには、飛行機の燃油サーチャージのような物価変動に伴い使用料が変動するような料金体系の在り方など適切な経営のあり方について検討していくべきだと考えております。
【委員】
コントロールできないインフレや物価高騰等に関して、料金に即時反映できるような算定ツールを用いた料金体系の設定はできるのでしょうか。
【事務局】
条例で明確に料金の設定をしなければならないとされているため、変動型の料金体系は難しいと思われます。もし、算定ツールを使用するのであれば改定の検討段階の参考資料としての使い道になると考えております。
【委員】
３ページの資本的収支の資本的収入の出資金の基準内･基準外の内訳はありますか。
【事務局】
基準内が約２億８千万円、基準外が約７億６千万円になっております。
【委員】
出資金は当初想定していたよりも多かったのか少なかったのかどちらでしょうか。
【事務局】
想定していたよりもやや多くなっていますが、前年度から繰越・翌年度への繰越の関係で正確な単年度収入となっていないため、当初との比較はあまり意味がないと考えております。毎年度繰入金については、必要な額を繰り入れております。
【委員】
今回の使用料改定では資本的収支については考慮せず、収益的収支の改善のみを考慮したものであるという認識でよろしいでしょうか。
【事務局】
お見込みのとおりです。
【委員】

令和８年度の改定によりしばらくは改定の必要がないと思っておりましたが、物価高騰により短スパンでの改定が見込まれるとのことで、市民への理解を得るためにも改定に向けて少しずつ情報を開示していくことが必要ではないかと考えております。

≪２　その他≫

【委員】

昨今の物価上昇に伴い、根拠を持った合理的な値上げについては理解が得られやすい風潮もあるのかなと思うのですが、料金を改定したことについての反響はいかがでしたか。

【事務局】

いただいた問い合わせは昨年 10 月から 16 件ありまして、主な内容は値上げの理由や制度設計についてのものでした。また、周知の方法（チラシの内容が分かりにくい）についても意見をいただきました。

【委員】

料金改定をしないと一般会計から各事業への繰出し等が発生して刈谷市の財政状況がどんどん悪化してしまうといったことや水道事業、下水道事業の経営や財務の仕組みを市民の方が理解できる場や方法があると、今後の料金改定の際に市民の理解を得やすいかと思います。

事務局より今年度開催予定のすべての審議会が終了したことと今後の予定について説明。

以上